

「作業に焦点をあてた作業療法実践自己効力感尺度」の 因子分析と構成概念妥当性に関する研究への協力をお願い

私たちは、地域包括ケアシステムの職種協働支援の中で、作業療法士が人々の健康に貢献していくために、作業に焦点をあてたOT実践(Occupation Focused Practice ; 以下, OFP)に対する自己効力感を高め、OTの職業的アイデンティティを発達させていくための一助となるよう「作業に焦点をあてた作業療法実践自己効力感尺度(Self-Efficacy Scale of Occupation focused Practice ; 以下, SES-OFP)」の開発を進めております。
この度、私たちが開発したSES-OFPの探索的因子分析と構成概念妥当性を検討するために以下のQRコードから尺度項目への回答のご協力をお願いいたします。

■ 研究実施者

- ・九州栄養福祉大学 リハビリテーション学部作業療法学科 青山 克実(実施責任者)
- ・東京都立大学大学院 人間健康科学研究科 石橋 裕
- ・一般社団法人日本人間作業モデル研究所, 東京保健医療専門職大学,
首都大学東京名誉教授 山田孝
- ・専門学校麻生リハビリテーション大学校 作業療法学科 安部剛敏, 老川良輔

■ 調査対象者： 作業療法士養成施設(専門学校および大学)を卒業した作業療法士, および各養成校の正規の臨床実習を修了した最終学年次の学生で, 20代～50代の方

※正規の臨床実習の修了：少なくとも1例は実際に作業療法の評価～成果判定までの経過を経験
できていること(症例基盤型, 診療参加型のいずれでも可)

■ 調査期間：令和3年2月15日～3月15日

